

遊戯自在

遊戯自在（ゆげじざい）
「遊戯自在」とは、煩惱や執着に囚われることなく、自由で豊かな心を持って生きるという意味です。私は、この世に生を受けてから今日まで、仏の教えに導かれながら、何ものにも縛られない心を育てようと努めてきました。
「遊戯」とは、単なる遊びではありません。物事に軽やかに向き合い、深刻にとらえ過ぎず、しかし誠実に生きることを指します。この言葉には、仏道の修行において「軽やかさ」も大切だ
という思いを込めました。

六十五年

六十五年（ろくじゅうごねん）
「六十五年」、これは私の歩んできた人生そのものです。長いとも短いとも言えないこの歲月ですが、振り返れば、全てがありがたいう縁でした。
人間の一生は、仏教で説く「無常」を感じさせるものです。しかし、無常だからこそ一瞬一瞬が尊く、今を精いっぱい生きることが仏道に通じます。
この六十五年は、私にとって「縁と感謝に満ちた時間」でした。

行雲流水

行雲流水（ぎょううんりゅうすい）
この言葉には、私が大切にしてきた生き方の指針が込められています。
「行く雲、流れる水」のように、物事に逆らわず、自然の流れに身を任せる。これが私の理想でした。
ときには苦しいことや困難もありましたが、それらを無理に押し返すことなく、ただその流れを受け入れる。仏教では「無為自然」と言いますが、それこそが本当の安らぎを得る道だと信じています。私の歩みは、この言葉に尽きるでしょう。

處處隨縁

處處隨縁（しょしょずいゑん）
「處處隨縁」とは、どんな状況でも、どんな場所でも、縁を受け入れながら生きるという教えです。私は、仏教の「縁起」という教えを深く信じてきました。
この世の中の全ては縁によって成り立ち、私たちはその中で生かされています。
縁があった方々、出来事、そして環境に感謝し、受け入れてきたこの人生は、まさに「縁そのもの」でした。皆さまと交わった縁も、私の人生を豊かにしてくれました。
この言葉に、深い感謝の気持ちを込めています。

「遺偈を通じて伝えたいこと」
この遺偈を、私の最後のメッセージとして残します。自由な心で生き、人生の流れに身を委ね、縁を大切にすること。それが私の生き方であり、仏道そのものです。
どうか、この言葉を皆さまが歩む道の一つの灯火として受け取っていただければ幸いです。
すべての縁に、深く感謝いたします。

陽廣山報恩寺 住職 加藤良隆 合掌

